

意見記述 本講座の成果活用について自由記述をお願いします。

プロジェクトマネジメントの手法を使い、業務を管理していきたい。
技術のみに目を向けるだけでなく、航空機開発の一連の流れを理解し、俯瞰的に開発を考えることで、要求される技術も自ずと分かるのではないかと思います。
英語での negotiation で、自分が積極的に発言するために必要なワードを考えずに自然と発し、今後役立てたいと思いました。
業務としては防衛関連のため、直接的には関係はないかもしれないが、民間航空機を知ることで様々な視点から改善点を見つけられるようになったと思う。
民間機に携わることがあれば再度読み直して活用したいと思います。
業務上、海外メーカーとのやり取りを行うことがあるので、やり取りをスムーズに進めるためにも午後の講座で学んだ英語でのテクニックを活用したいと思います。また、午前の講義内容につきましても普段の業務ではあまり関わることのない内容も多々あったので、航空業界全体を知る上で活用していきたいと思います。
本講座で身につけた知識をさらに伸ばしていけるよう今後も業務に取り組みたいと思います。
外国人（コンサルやパートナ, Authority）とのコミュニケーションに活用できると思います。
AM のセッションでは、機体全体の開発にかかわる知識を多く習得することができ、大変有意義な講義でした。また、PM のセッションでは、普段の業務の中ではほとんど英語を使うことがないため、苦労しましたが、英語で自分の伝えたいことを表現することの難しさを再認識させられました。
英語での会議の進め方やそのボキャブラリーは直ぐに業務に活用させて頂きました。
MITAC に勤務して設計業務に携わっています。実務では断片的な知識になりがちですが、TC 制度などについての知識が改めて整理できました。
私は、本講座で学んだ内容を生かし、プロジェクトを全体から見ると広い視野で見ながら、いかに効率よく、いかに他の部署・関係者と一丸となつてうまく進めていくかということを意識していきたいと考えております。
また、これまでは、英語を多用し、海外企業ともグローバルにプロジェクトを進めていくことに対し、「どのように進めていけば良いのか適切な手段を知らない」ために苦手な意識も一部ありましたが、本講義でその方法も知ることができました。ここで得られた知識を生かし、積極的にチャレンジして進めていくようにしたいと考えております。
GPL 講座を改善する案にて記載しました。
現在、私は官需機航空機装備システムの維持設計業務を行っていますが、昨年まで先進技術実証機降着系統の設計開発業務を行っていました。
昨年まで所属していたプロジェクトでは海外装備品メーカーの開発状況が遅れていて、私と同じ装備系統の重工社員がメーカーの現地に出張し、フォローをする機会がありました。今後の将来戦闘機等の開発時にも、装備グループ内のメンバーとして海外企業と交渉する機会はあると思うので、その際に積極的に参加し、有益な交渉ができるようにしたいと思います。
会議に臨む時の考え方を知れたので、会議への参加の仕方を改めようと思っています。
英語で話すことへの抵抗が薄れました。また、メーカーの視点から航空機産業の実状を垣間見ることができました。
本講座で学んだ航空機開発手法など、今後の業務の中で取り入れていきたい。International Communication のスキルは今後機会があったときに実践できるようにしていきたい。
共同研究・開発等で、国内外の航空機関連のメーカーと打合せを実施するので、まずはそこで今回の知見が活かせるかなと考えています。
将来の認証取得に向けた準備・情報整理
・英語を学習する習慣が身についた。
・同業種で意識の高いメンバーと出会えたことで仕事へのモチベーションが向上した。
当座の活用は英語でしょうか？受講を通じて、少なからず Quick に英語が口をつくようになったと思います。
今回教えて頂いた内容をもとに、さらに勉強を進めていきたいと思います。また、洋楽のシャドー・スピーキングは非常に有益に思いましたので、今後も継続した行っていきます。
講座は包括的な内容で、航空機開発の全体の流れが理解できました。その全体の流れの中での今の業務の位置付けを理解し、正しい方向に向かっているか確認しながら、チームをマネージして業務を進めていこうと思

<p>ます。</p> <p>また、学んだ文化の違いや英語フレーズを活用して積極的に意見を主張していきたいと思います。</p>
<p>英語学習のモチベーション UP として（現在は防衛機担当で英語を使わないためモチベーションが下がりがつあった）。</p> <p>なんとなくしか解っていなかった TC 取得に関する知識が高くなりました。またプロジェクトの進め方についても理解が深まり、これは民需、防衛問わず、リーダーシップを発揮できそうです。</p>
<p>最近になり、海外の装備品 TIER1 メーカーの方とのやり取りが出て参りましたので、今回のクロスコミュニケーションで積んだ経験を生かして有利に案件を進められるようなやり取りをしたいと考えています。</p>
<p>交渉での主張の仕方(主張をして、それをサポートする事柄を述べていくやり方)は、会議の発言において役立つと思う。</p>
<p>本講座で学んだ知識を活用し、会議等において、各意見を取りまとめられるようイニシアチブをとっていきたい。</p>

カリキュラムの内容・量について

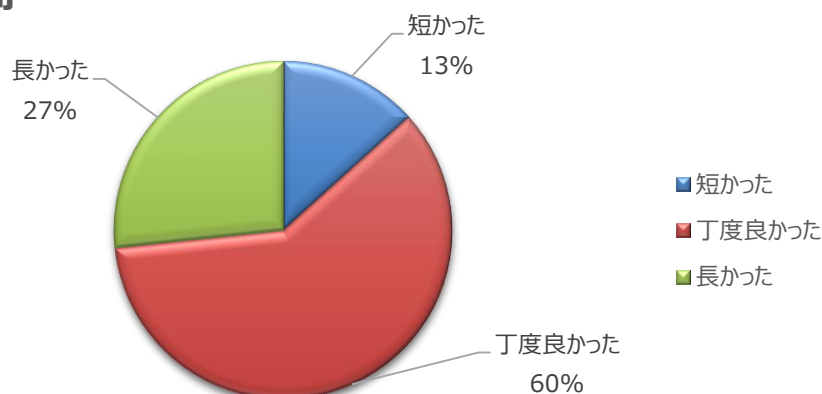
	A: 不足している	B: 適切である	C: 過剰である	D: 不要である。
第1回 航空機関連産業の現状課題と将来動向	2	26	2	0
第2回 航空機開発の特質	2	26	1	0
第3回 航空機の認証に関する Regulations とガイドライン	9	19	1	0
第4回 品質管理と特殊工程	5	24	1	0
第5回 商品企画と開発の流れ	8	21	1	0
第6回 航空機製造技術とサプライ・チェーン・マネージメント	5	22	2	0
第7回 航空機開発手法	5	23	1	0
第8回 開発手法の傾向	4	25	1	0
第9回 プロジェクト・マネージメント	8	21	1	0
第10回 開発計画の管理	4	24	2	0
第11回 SE と Requirement Based Engineering	5	21	3	0
第1回 Cross Culture Communication	3	25	1	0
第2回 Presentation Skills & Exploring Culture	5	22	1	0
第3回 KAS1:Physical vs Digital Mockups	4	23	1	1
第4回 Business MGMT Skills & Exploring Culture	4	25	1	0
第5回 KAS2:Wing Skin	3	24	2	1
第6回 Meeting Skills & Exploring Culture	4	25	1	0
第7回 KAS3:Aluminum vs Composite Materials	3	24	2	1
第8回 Negotiation Skills & Exploring Culture	5	24	1	0
第9回 KAS4:Spoilers	3	25	1	1
第10回 Review & KAS Set Up	6	22	2	0
第11~14回 KAS Practice in Groups	5	24	1	0
第15回 KAS Practice in Groups リハーサル	4	25	1	0
第15回 成果発表	4	25	1	0

注記：一部欠席した受講生もあり各回の総数は必ずしも回答者総数の「30」ではありません。

(1) 期間：75時間／15回

期間	データの個数
短かった	4
丁度良かった	18
長かった	8
総計	30

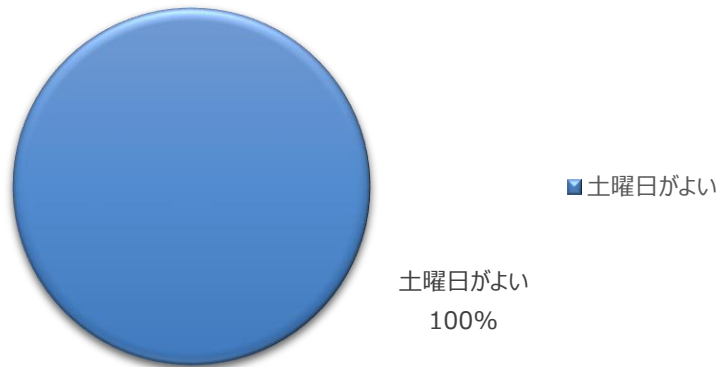
期間



(2) 開催日について

開催日	データの個数
土曜日がよい	30
総計	30

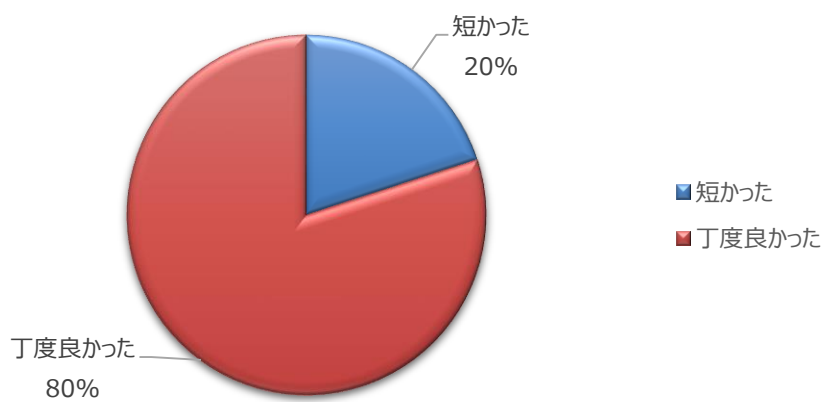
開催日



(3) 時間数：午前 2 時間、午後 3 時間

時間数	データの個数
短かった	6
丁度良かった	24
総計	30

時間数



意見記述 **GPL** 講座開講期間・開催日に関しコメントがあれば記述願います。

毎週は仕事の都合もあり、予習に時間を取るのが難しかったため、一旦休日を挟み、2週間に1度でもよいと思います。
午前中講義の最後の15分で講義内容を受講生が要約し、理解できたことを確認するといったこともできたいいなと思いました。
遠方の方には申し訳ないが、8時～13時でやってもらうと、家族のクレームも少なくなるし、時間が有効に活用できる。10時スタートは一日つぶれてしまう。
午前中の講義時間が少し短く感じましたので、午前も3時間にしていかがでしょうか。また、実施期間についてももう少し長くしていかがでしょうか。
双方ややキツイかと思いますが、9:00-16:00にしたり、10:00-17:00にしたりすれば、もう少し中身を増やせると思います。
開講期間・開催日については現状で丁度良いものでした。特に開催日は会社が休みである土曜日が最適であると考えます。
特に問題ないと思います。
私は家庭持ちであるため、家族に結構我慢をしてもらいました。 1日の授業をもう少し長くして、 開催日数を少なくしてもらって良いかと思いました。
回数は現状の15回でよいと思いますが、午前中の講義時間が少し短く、また、午後の講義の英会話実習/実践の時間が少し不足していると思いました。 ですので、講義時間を1時間増やしてもよいと思います。但し、遠いところから参加されている受講生もいたので、9時開始とするのではなく、例えば13時～14時を午前中の講義の質問、及び林先生のコメント等の時間とし、14時～17時を英語のレッスンとしてもよいと思います。 また、英語の講義時間には約30人の1分間スピーチがあり、1時間を超える日が多く、他の受講生と英語で会話する時間が少なくなり、もったいないと思いました。ですので、受講生が多い場合は1分間スピーチの間だけクラスを二分し、教室の前後で同時に2グループで1分間スピーチを行えば時間短縮になると思います。(但し、大人数の前で英語で話すというのも本講座の重要な点だと思うので、クラスを二分しても十分聴衆人数がいることが前提だと思います)
ほぼ毎週土曜日の開催で大変であったが、結果的に毎週英語に触れることができ良かった。
英語に関してはもう一時間長くても、大丈夫だと感じた。
英語の授業でKAS1、KAS2、KAS3、KAS4がスケジュールには書いてありますが何時あったのかわかりませんでした。おそらく英語のアダム先生が工学専門でないので、飛ばされたのでしょうか？私は、KHIの中でも電気専門で構造系には疎いので、サラッとでも内容に触れていただけると私的には良かったです。その代わり？マズローの欲求5段階説に結構な時間が割かれていましたが、ここは、もう少し内容あっさりでも良かったかなと思いました。
開始時間が10時であり、遠方からも十分に通えた。ただし、やや体力を消耗した感は否めない。
・8/1は自身の結婚式のため参加できませんでした。そのため11回のアンケートは未回答とさせていただきます。 ・人数の関係もあるかもしれませんが、1分間スピーチの時間が長すぎるかと思いました。とはいえすぐ自分のためになる時間だったので不要というわけではありません。良い改善案は思いつきませんが・・・ ・最初のころやっていやカードで英語のペアを決めるようなことをすればもっとたくさんの人と話をすることができたかもしれない なるべくいろんな人と絡むことのできる工夫があればなお良いと感じた。
開催日自体は土曜日が妥当だと思いますが、開催頻度が高過ぎるというのが率直な感想です。ハイレベルな講義と不慣れな英語のダブルパンチを毎週浴びるのは、体力的にかなり堪えるものがありました…。色々ご都合が

<p>あったかとは存じますが、隔週開催くらいが丁度良かったように感じます。</p>
<p>期間、曜日とも、ちょうど良かったです。</p>
<p>受講者が 33 人と、定員の 25 人より多く、1min speech の時間が少々長くなっていたため、英語テキストが省略された部分があるようでした。来年も定員以上となるようであれば、午後の時間を少々長くした方が良いのではないかと思います。</p>
<p>期間前半を航空機の講義、後半でまとめて英語とした方が、英語に集中できて頭に入りやすいと思う。もう少し期間を長くして、英語討論の時間を増やし、たくさん話す練習をしたかった。1M スピーチやビデオを見る時間等の話さない時間を省くと、会話時間があまりない。後に自分で練習することが前提だが、もう少し講義の中で練習したかった。</p>
<p>休憩時間をあと 5 分ほど長くして頂ければありがたかったです。喫煙所が遠いので、タバコとトイレの両立が少し忙しかったです。</p>
<p>開講期間等については現状でよいと思う。これ以上長いと受講者への負担が大きいき、短いと成果が十分にでないように思われる。</p>
<p>世界の航空機業界におけるスタンダードを学ぶことができ、非常に有用であった。今後、レギュレーション等を学ぶだけでなく、レギュレーション策定に参加できるよう知識を深めていきたい。</p>

5) 成果発表の感想（自由記述）

<p>練習ではどうなるかと思ったが、本番はうまくいったと思う。</p> <p>1人のプレゼンよりグループでの発表のほうが、実践的で有意義であった。</p>
<p>もっと会話らしいイントネーションで英語を話すことが必要であると実感しました。</p>
<p>チームメンバーに恵まれていたため、発表だけでなく打ち合わせもスムーズに行うことができた。</p> <p>年代も会社も別々の方とこのようなミーティングを行う機会は少ないので、非常に参考になった</p>
<p>課題への取り組みはもう1週間早めてほしい。</p> <p>まだ内容が固まっていないのに本会場でリハーサルをやって指摘されても、納得できない。</p>
<p>Teamに分かれた後もいろいろと迷惑をかけることが多くとても不安でしたが、周りの方にサポートして頂き無事に成果発表を終えることができよかったです。成果発表では今まで学習してきたことを活かしたのではないかと感じています。大変なこともありましたが、一緒に講義を受けることのできた皆様に感謝しています。</p> <p>また、英語が本当に苦手でしたが、本講座に参加したことで英語に対するとらえ方が変わったと感じています。本講座を受講することができ大変良かったです。</p>
<p>良い意味でプレッシャーもありましたので、良かったと思います。</p> <p>もう少しリアリティを出すならば、テーマ（課題）を1つにして、OEM/サプライヤーの2組に別れ、シチュエーションだけを設定して、本当にネゴを試してみるのも面白いかと思います。</p> <p>また、最近、認証がテーマになることが多いので、OEM/Authorityなども面白いと思います。</p>
<p>自分の考えを言葉や資料を使って、他人分かりやすく伝えることの難しさを再認識しました。これまでの講義で学んだことを成果発表にうまく盛り込むことができたかわかりませんが、決められた時間のなかで、結果を出せたことはよかったのではないかと思います。</p>
<p>発表をやってみて、あの発表を15回の講義の中で3回ぐらいやっても良かったかと思いました。聴講者は不要で生徒が質問すればよいかと思います。</p>
<p>会議形式での発表で、かつ各自がある程度話をするという制約があったので</p>
<p>題材となった4つの項目（KAS）に関して、クラスの中でももう少し時間をとって頂きたかった。</p>
<p>個人別発表ではなく、チームごとの発表であったことに最初は不安もありましたが、本番では非常によくできたと感じました。</p> <p>チームごとの発表であることで、自分のことだけでなく、他のメンバーのことも考えながら発表内容を考え、仕上げていくプロセスは、実際に仕事でプロジェクトを進めていくことと同じであり、今回の発表でこの意識付けが自然と組み込まれた形で成果発表まで進めることができました。反省点としては、発表後の聴衆の方々からの質問が専門性が高かったのですが、もっと率直かつ簡潔に答えられることができたかと、悔しい思いでした。</p>
<p>人前で英語を長く話す機会がほとんどない為、良い経験となった。</p> <p>リスニング力が不足している為、仲間の英語が聞き取れない。</p> <p>弱点もわかった。</p>
<p>成果発表はよい方式だと思います。難しい課題は他の受講者とのコミュニケーションが促進されてよいと思います。</p> <p>練習時にはかなり四苦八苦しましたが、なんとか英語での会議ができたのでよかったですと思います。観客からの質問は予想外のことも多く、その場でとっさに英語で答えるのはやはり難しいと感じました。成果発表後、もっとこう言えばよかったのではないかとと思うところもあり、今後も練習してとっさの一言が言えるようにしたいです。</p>
<p>質問があった際、積極的に応答ができなかったのが悔しかったです。</p> <p>でも、無事終わることができてよかったとも思っています。</p>
<p>午前中のリハーサルではあまりうまくいかなかったが、本番ではうまくフィードバックでき、スムーズにいったと思う。質問に対してもう少しうまく対応できていたら良かった。</p>
<p>業で習った言い回しなど、中々スラスラと出てこずにもどかしい思いをしましたが、異なる会社の方々と作業を通していろいろとコミュニケーションできましたので、有意義でした。座学のみではこうは行かなかったと思いました。</p>

<p>One-minute speech のおかげで、しゃべりすぎず 1-2 分で話を切る感覚が身についていたように感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終回で成果発表会をすることで研修をやったという充実感があったのでとてもよいプログラムだと感じた。 ・成果発表本番前に一度他チームの状況を見る中間発表のようなものがあったのもよかったかもしれない。他チームを見ることで工夫できる部分もあった気がする。
<p>開講当初に比して、受講生間の英語力の差が大きく縮まっている印象を受けました。これだけはっきりとした教育の効果を目の当たりにしたのは、初めてかもしれません。旧帝大の底力を見せつけられた思いです。</p>
<p>成果発表の準備の期間は思ったより短かったです。しかし、チーム・メンバーの皆と従業以外の平日にメールでやりとりすることにより、うまく行うことが出来ました。本番では、あまり緊張せず、落ち着いて行うことが出来ました。</p>
<p>個人ではなくグループ形式での、実際のビジネスケースに即したネゴシエーション/コミュニケーションの発表は、GPL 養成の趣旨に即しており、個人発表に比べて大幅に準備が大変になる一方で、得られた成果は大きかったと思います。一つ反省すべきは、発表を成功させようとするばかり、ある程度ストーリーを組み立ててセリフを決めてしまった部分があったことで、最初から英語で各自の主張をぶつけてネゴシエーションを行い、得られた結論をそのまま発表出来ていれば尚良かったかと感じています。</p>
<p>成果発表の時間配分や内容は良いと思う。私は（予想通り）話す内容を忘れてしまった。まだ英語脳が出来ていないのだと痛感した。ステージ上での発表という経験はめったにない。良い経験になった。</p>
<p>事前打ち合わせについては、十分に準備の時間を頂けたので、お題の打合せを細かくできてやりやすかったです。本番については、どうしても必要な単語が出てこない場面があり、簡潔に発言ができず困りました。自身の業務では言いたい内容を適切な単語一言で伝えられるよう、資料やツールを準備しようと思いました。</p>
<p>苦労したがいい経験ができたと思う。 英語の質問に対して、その意図を理解して適切な英語の表現で対処するのは現状では難しいことが分かった。この改善に努めたい。</p>
<p>GPL 講座で学んだことをフルに活用できたと感じており、大変達成感があります。今後の海外での仕事において、心強い武器となると感じています。</p>

6) 講師に対する意見 (自由記述)

<p>貴重な講演を聞くことができ、大変有意義でした。 この場をお借りして、御礼申し上げます。</p>
<p>みなさん熱意をもって講義を行っていただき、どんな質問にも答えてくださったことが印象的だった。 第 11 回は私用で欠席してしまったため、「新たな知識を得ることができなかった」を選択しました。</p>
<p>毎週たくさん講師がいましたが、そんなに必要ないのでは？ 個人的にはアダムよりハノンにやってほしかったです。</p>
<p>大変貴重なお時間を頂きありがとうございました。まだ業務経験が浅いということもあり、知らないことが多くありましたが、他部門の業務内容等について知ることのできる大変良い機会となりました。本講座で教えて頂いたことを今後の業務でも活用していきたいと思います。</p>
<p>Adam 先生が、あまり計画的な授業の進め方ではなかったように思います。 臨機応変という意味では、良い面もありましたが、同じビデオを何度も見たりするなど、もう少し有効に時間を使うべきだと思いました。</p>
<p>MRJ 等の開発で最前線にいる関係者が講師になっており、実際に苦労したことなどさまざまな話を聴くことができ、とてもよかったです。</p>
<p>できれば三菱関係以外の方の講義を増やして頂いたほうが良いかと思いました。機体の話は重要であることはもちろんですが、我々は装備品メーカーの立場をご配慮頂けるのであればあまり世に出ていくために活用できる話が少なかったかと思います。機密の関係や講座の主旨もあるかと思いますが、一般的な話が多かったように思えました。 一方でコンサルの方の話は非常に面白かったです。</p>
<p>航空機開発・プロジェクト関連のクラスにおいて、各専門の講師の方々から経験を含んだ講義を聞き、大変良かった。</p>
<p>先述しました通り、講師の方々実際に最先端の機体に対する専門性・ご経験のある方ばかりで、とてもありがたいことでした。 通常私の仕事では、他の企業や大学教授の方々からこのような講義を受けることはまずありません。そのため、一般の専門書やインターネットの HP などでもなかなか知ることができない、実際の作業でのご苦労や、今後はもっとこうしていくべきというご意見を直接聞く機会が得られたことが、本講義ならではの貴重な体験でした。</p>
<p>講座全体を鑑みて、講師の情熱が伝わってきまして非常に有意義でした。これ以外にも、他のワークショップを複数経験していますが、講師、受講生共にレベルが高いと感じて、非常に有意義でした。この場を借りてお礼を申し上げます。</p>
<p>アダム先生が良くも悪くも自由でした。 成果発表の順番を当日替えるのは、ちょっとリスクかと。 私の上司は私の発表時間目掛けて来たが、「来たらもう始まっていた」と言っていた。 それとアダム先生以外のサポートの先生の出番が少ないので、もう少し役割分担をしっかりと決めた方が、サポートの先生をもっと有効的に使えるのではと感じました。</p>
<p>林先生、アダム先生をはじめ G P L の講師の方々には熱心に講義いただき、とても身になる話をたくさん拝聴することができました。また、午前中の講義に来て頂いた講師の方々には M R J 開発の最前線で活躍している方だったので、実際の体験談を多く聞けたのがとてもよかったですと思います。プロジェクトが違えば、他プロジェクトの体験談を聞く機会が少なくなるので、官需機に所属している私にとってはとても良い機会でした。M R J がひと段落したら今度は民需の方に官需機の開発・維持設計を紹介する機会があってもよいと思います。</p>
<p>講師に対する意見となるか不明ですが、午前中の講義の途中で多少なりとも、休憩が欲しかったです。 貴重な講演ありがとうございました。</p>
<p>林先生を含め、講義のために準備を下さった先生の方々有り難うございました。</p>

<p>いろいろと追加で資料などを用意して下さい有難うございます、大変理解の助けになりました。まだまだ試行改善(すみません)が進んでいると見受けられる養成講座でしたが、そこが柔軟性がある、画一的ではなく良い所だとも感じました。本年度の成果をいろいろと取り入れて頂けると幸いです。来年度も、早速同じ課から一名参加予定ですので、引き続き宜しくお願い申し上げます。</p>
<p>質疑応対にも真摯に受け答えしていただき、非常に感謝しています。</p>
<p>5か月間お世話になりました。今後とも27年度受講生との関係を大事にしていきたいと思っております。GPLという出会いの場を提供していただいたことに感謝です。</p>
<p>約半年間ありがとうございました。受講を通じて得た知識やスキルを業務で活かすことで、講師の皆様への恩返しが出来ればと思います。</p>
<p>5ヶ月間、大変ありがとうございました。自分が普段行っている業務以外の広範囲な航空機の業務に関する知識が身に付き、非常に良かったです。また、英語の授業も単なる英会話にとどまらず、Maslow や Cross Culture Communication といった心理学、異文化における物の考え方の違い等について学ぶことが出来、大変勉強になりました。</p>
<p>懇切/丁寧にご指導頂いた講師の方々に、大変感謝しています。</p>
<p>有意義な5か月間でした。受講生間での交流も楽しみの一つでした。川崎、三菱と会社は違っても、皆同じように悩みがあり、分かち合える場があるというのは良いことだと思います。講師の方々も会社の垣根を越え、親切に熱心に教えていただきありがとうございます。</p>
<p>特にありません。</p>
<p>午前中の講義ではさまざまな講師の方々から航空機開発に携わった経験談を聞いて非常に参考になった。このような話はなかなか聞ける機会がないので、ありがたかった。 英語の講義は英語のみで行われたため、負担は大きかったがよい経験になった。 英語の講師の方々には大変お世話になった。 また、全体を通してご指導いただいた林先生には特に感謝している。</p>
<p>航空機開発の苦労談や世界の航空機業界のスタンダード、欧米人の考え方や一般的につかうフレーズ等を学ぶことができ大変有意義な講義でした。ありがとうございました。</p>

7) 事務局に対する意見（自由記述）

<p>約半年間ありがとうございました。新しい仲間もでき、大変よい機会でした。 業務を引っ張っていけるよう尽力します。</p>
<p>いろいろ書きましたが大変ためになる講座だと思います。 継続開催をお願いします。</p>
<p>講座が開講されている期間、最後まで様々なサポートをして頂きありがとうございました。</p>
<p>午後のセッションで、事務局側の意見が分かれる場面が2～3回あったと思います。現場が多少なりとも混乱するので、事前に共有しておいていただいたほうが良いと思いました。</p>
<p>不便なく受講させて頂きました。 事務局の皆様の講座進行サポートへのお心使いによりそのように感じたのだと思います。 ありがとうございました。</p>
<p>適時適切な対応をしていただきありがとうございました。</p>
<p>本講義は、受講しなければ知りえることができなかった専門知識や他の企業の講師・関係者、受講生の方々のつながりを得ることができ、本当に素晴らしいものでありました。このような素晴らしい貴重な機会をご用意私達に与えて下さった、林先生をはじめとする GPL 事務局の方々には、心より深く御礼を申し上げます。今回学んだことを今後も継続的に強く意識してグローバルプロジェクトリーダーを担う人材になるべく、精進して参りたいと思います。</p>
<p>講義を休んでしまった際、休んだ講義の資料や課題の情報を次の講義までに知る手段が何か欲しかったです。 長い間ありがとうございました。 アンケートの送付が遅くなってしまい申し訳ありませんでした。</p>
<p>事務局の方々にも様々な面でサポート頂き、ありがとうございました。</p>

以上

平成 27 年度 GPL 講座アンケート結果

会社上司

アンケート回答者数

受講生の会社上司 11 社 21 名にアンケートをお願いした結果、下記の 6 社 10 名から回答を頂きました。

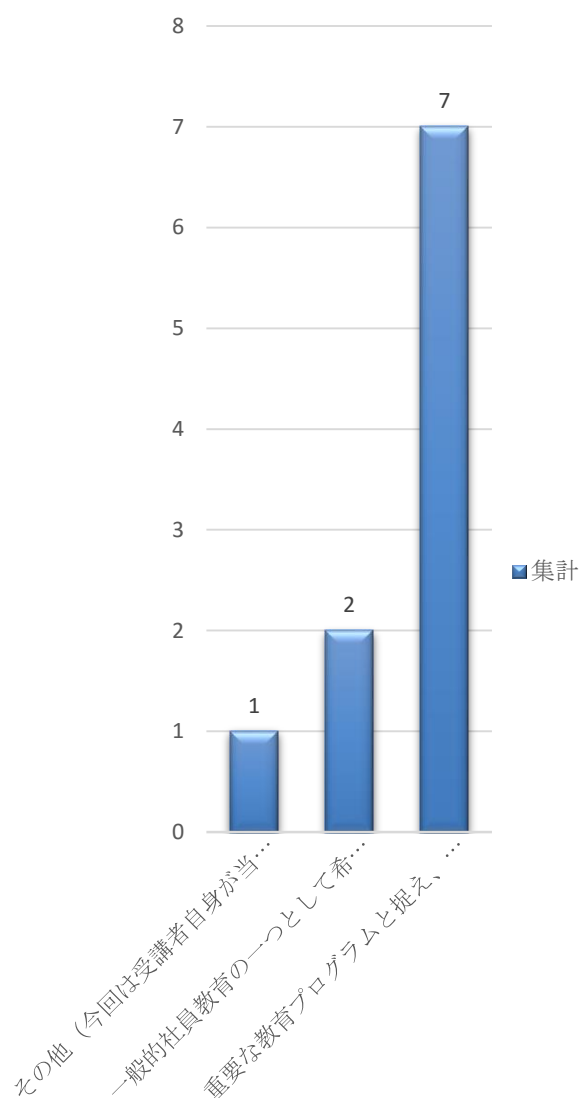
会社名	アンケート 依頼者数	アンケート 回答者数
(株) 中央エンジニアリング	1	2
(株) 第一システムエンジニアリング	2	1
(株) 中央図研	2	1
株式会社 ベリサーブ	2	0
川重岐阜エンジニアリング株式会社	1	1
シンフォニアテクノロジー(株)	2	1
高砂電気工業株式会社	1	0
川崎重工業 (株)	6	4
三菱航空機 (株)	1	0
三菱重工業 (株)	2	0
富士重工業 (株)	1	0
アンケート依頼者・回答者合計	21	10
会社数合計	11 社	6 社

1.GPL 講座に関する御社の取組み

(1) GPL 講座の位置付け

GPL 講座位置付け	データの個数
その他（今回は受講者自身が当講座の情報を知り応募いたしました）	1
一般的社員教育の一つとして希望者を募集	2
重要な教育プログラムと捉え、特に積極的に奨励	7
総計	10

GPL講座位置付け



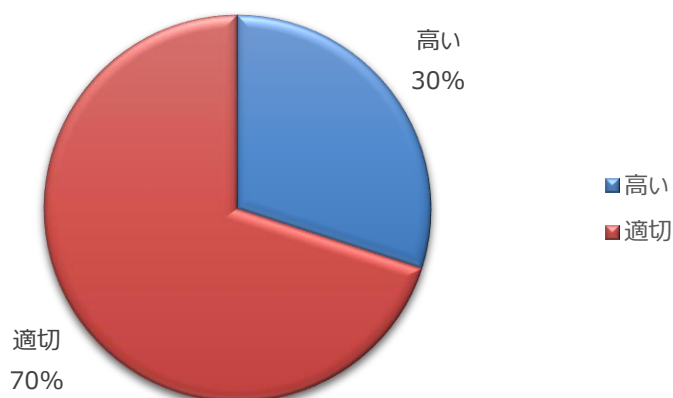
上記で「その他」を選択した場合は理由を記入して下さい。

- 今回は受講者自身が当講座の情報を知り応募いたしました。

(2) 授業料について

授業料	データの個数
高い	3
適切	7
総計	10

授業料



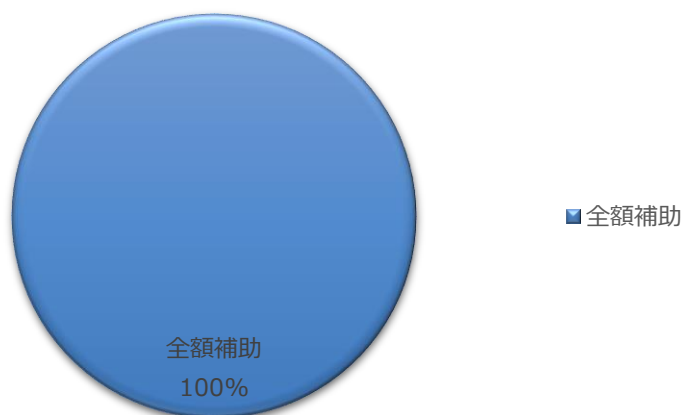
高い/安いと答えた方の提案する授業料

授業料提案	データの個数
妥当額：15～20万円/人	2
総計	2

(3) 授業料に関する御社の支援

授業料補助	データの個数
全額補助	10
半額補助	0
全額本人負担	0
本人負担 x %	0
総計	10

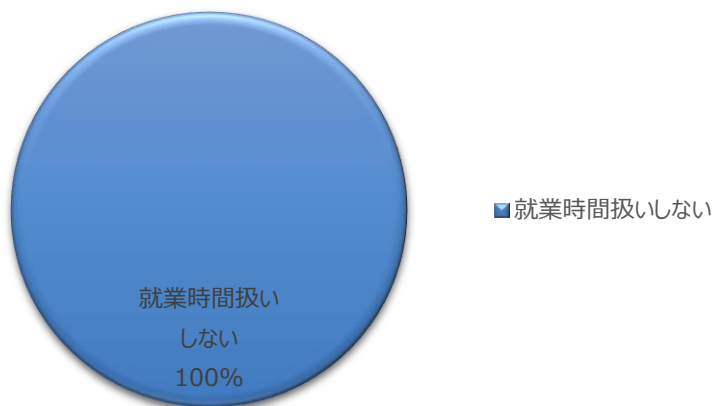
授業料補助



(4) 就業時間扱い

就業時間扱い	データの個数
就業時間扱いしない	10
休日残業扱い	0
振替休日付与・残業扱いなし	0
総計	10

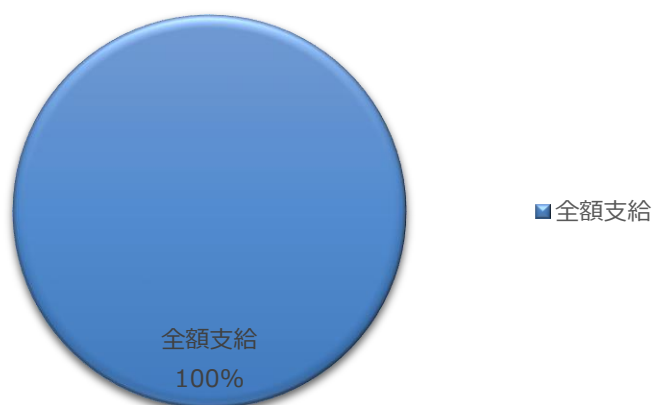
就業時間扱い



(5) 交通費

交通費	データの個数
全額支給	10
支給なし	0
総計	10

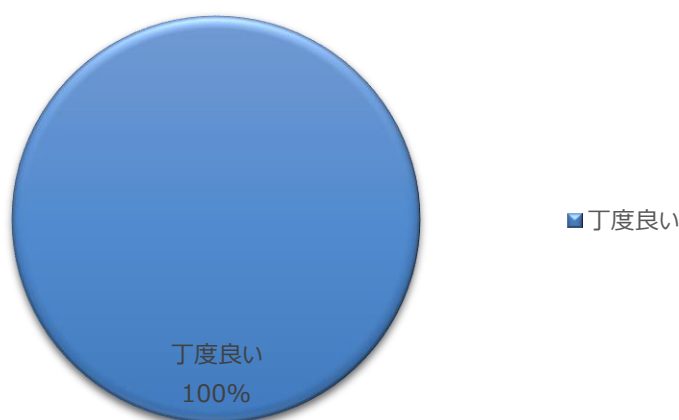
交通費



(6) 開講期間について 期間 75 時間・全 15 回

開講期間	データの個数
丁度良い	10
長い	0
短い	0
総計	10

開講期間



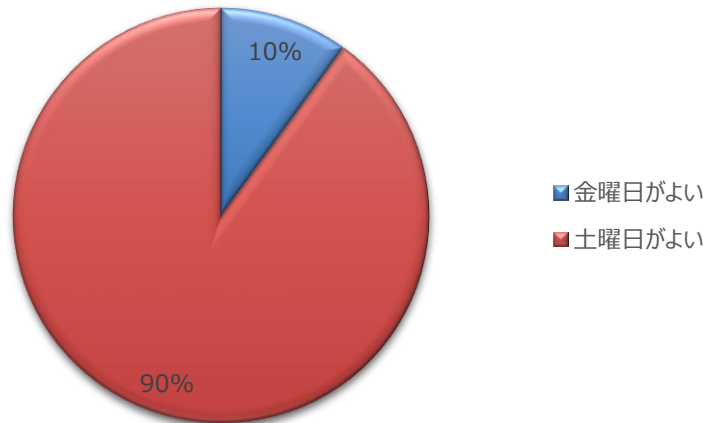
意見記述 GPL 講座の御社での位置付けに関しコメントがあれば記述願います。

装備品メーカーとして民間航空機機体やシステムを理解する良い機会として捉えている。 機体メーカー、システム・ソフトウェア開発、同業他社と知り合いとなり、情報交換、将来的な協業を目指せるような、人的つながりを作るきっかけとしたい。
幅広い最新の知識を習得する上で、非常に有効な講座であり、毎年数名の受講を奨励している。
受講によるグローバル業務だけに留まらず、対外折衝業務などのキーマン創出と他の航空機産業のエンジニアとの人脈形成の場として、大変重要と捉えております。
今回は受講者自身が当講座の情報を見つけて応募させていただきましたが、来年からは大変有用な講座と位置づけて、弊社明石工場でも関係者に情報を展開しようと考えております。
実際の業務では、基礎的な部分に立ち返っての検討・考察がなかなか出来ず、応用実務の締切に追われがちです。我々が期待しますのは、貴講座が掲げられている目標に沿って受講生を訓練してもらい、英会話を含む彼らの基礎的な能力が向上する事です。その上で受講生も業務を通して復習を行う事ができ、レベルアップが図られると考えております。
弊社における海外関連案件に対応する担当選考時、本講座の受講を有無を判断の一つとさせて頂いております。
特にございませぬ。

(7) 講座開催日について

講座開催日	データの個数
金曜日がよい	1
土曜日がよい	9
総計	10

講座開催日



意見記述 GPL 講座開催日に関しコメントがあれば記述願います。

本人の自主性、主体性を尊重し、強制はしない。
自己啓発として、業務扱いはしないが、会社としてはサポートする（講座費用、交通費、日当は会社負担とする）。
開催日は土日希望です。平日開催では業務に支障が出るため、参加者がなくなると予想されます。
当社では客先構内業務の従事者が多いため、今年度同様に土曜日の開催としていただきたいです。
特にありません。
特になし
できれば、年に二回開催していただくと参加の自由度が高くなると思われます。また年度の最初に開講より、7月頃からの開講が参加し易いかとも思いました。
通常業務との兼ね合いもあり、平日実施では参加が難しくなりますので、現状通り土曜日開催が良いと思います。休日を使う事は受講生の負担ともなりますが、逆にヤル気や修了時の達成感を醸成してくれるようです。
開催日については、現状で特に問題はありません。
会社を代表した意見ではありませんが、所属としては社員への負担（休養・休日の予定等）を配慮し、平日実施の方が望ましいと考えております。その場合は、必然的に就業時間（出張）扱いとなります。

意見記述 GPL 講座のカリキュラム内容で過不足はありますか？

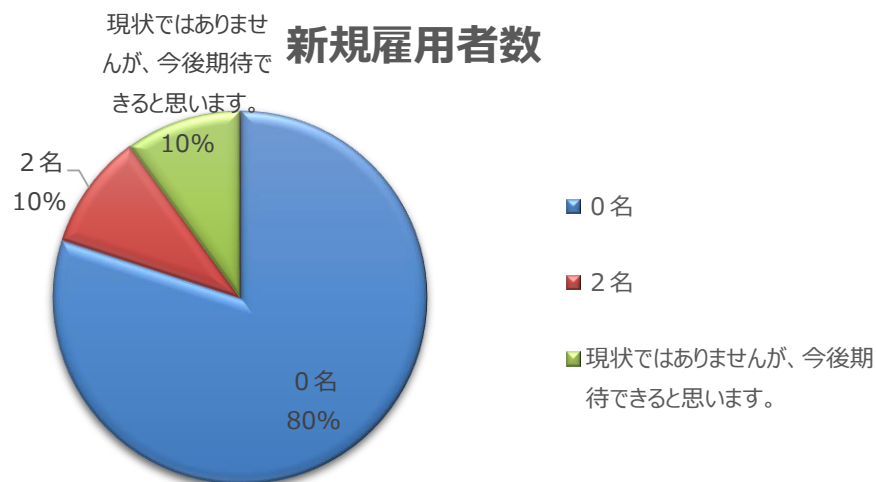
機体システム、装備品レベルの開発、またそれらの認証取得についての講義を加えていただきたい。
航空機に特化したことで、より具体的な学習ができたと考えます。
航空機に特化した事項が明確であれば、他の分野でも共通する事項として視野が広がり、今後の応用も大きいと考えます。
航空機開発の全体像を学ぶ場として適切と考えます。
専門的な事項については、受講生自身が専門性を伸ばすべきであり、特化したり、細かくなりすぎない程度が良いと考えます。
上記で良いと思います。
特になし
特にございません。

カリキュラム内容については（受講生の理解度に応じて実行上の濃淡が必要な場合があるかもしれませんが）特に過不足は無い理解です。題材に、実機に近い内容も取り込んでもらっていると聞いております。受講生にとって興味を持ちやすく、前向きに取り組み易いご配慮に感謝いたしております。
上記内容にて弊社の意図するところと合致しており、過不足はないと考えております。
リーダーとしてのマネージメント力（スケジュールや設計コスト管理）の養成に更に力を入れて頂けると助かります。
特にございません。

2.目標の達成度・受講評価

a) 受講生が核となることで、御社に新規雇用が創出されましたか？

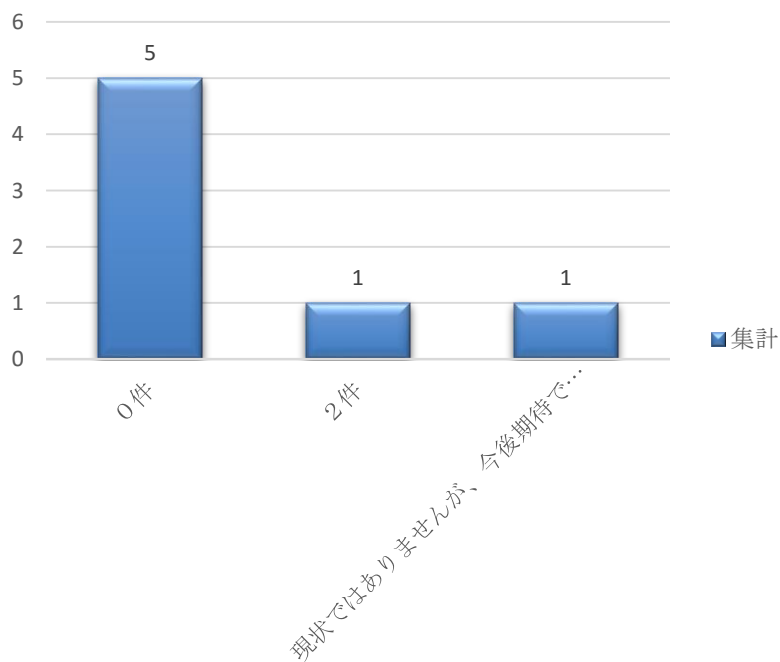
新規雇用者数	データの個数
0名	8
2名	1
現状ではありませんが、今後期待できます。	1
総計	10



b) 受講生が核となることで、御社の新規取引件数が増えましたか？ 新規取引件数

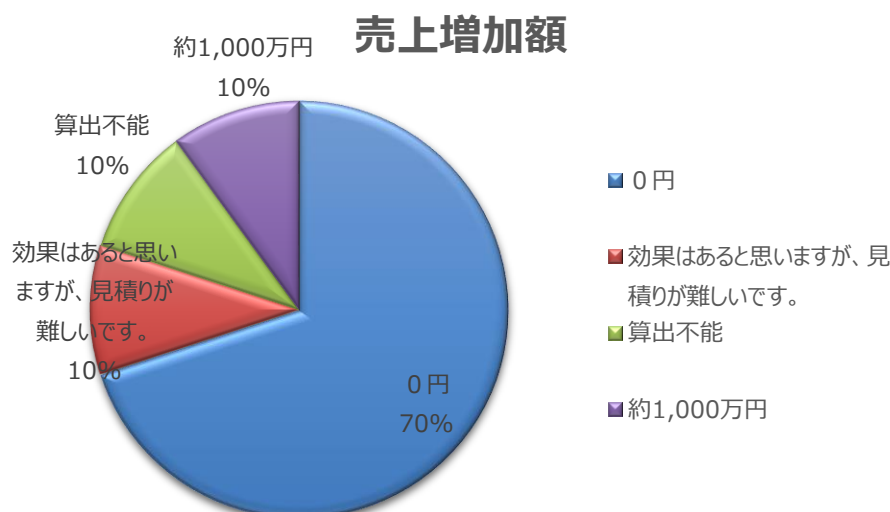
新規取引件数	データの個数
0件	5
2件	1
現状ではありませんが、今後期待できます。	1
総計	7

新規取引件数



c) 受講生が核となることで、御社の売上高が増加しましたか？ 売上増加額

売上増加額	データの個数
0円	7
効果はあると思いますが、見積りが難しいです。	1
算出不能	1
約1,000万円	1
総計	10



意見記述 御社で得られた GPL 講座の効果等ございましたらご記入願います。

<p>GPL 講座参加による経済的効果はまだ見えてきていませんが、受講生同士の横・縦のつながり、教授・先生との交流やアドバイスを頂くことで今後のビジネス展開に活かしていきたいと考えています。日本の装備品メーカーが世界の TIER-1 に認めて貰える、また追い越していけるような戦略・方針を当社だけではなく、日本の関係者の英知をしばって模索し、推し進めていきたいと思ひます。その為には当社としても優秀な人材の確保は必要ですし、また育成していくことが必須です。GPL 講座を通じて、人材の確保・育成をこれまでにない形で実現してきたと考えております。</p>
<p>受講生の積極性が出てきたと感じられる。 外国人との折衝にもためらいが減ってきたように感じられる。 お客様が GPL 講座を認識されていたことで、弊社の教育に対する取り組みを理解していただけたと感じられる。 また、受講者に対する期待度が社内外で向上したと感じられる。 受講生にとって、航空機設計全体の幅広い知識を知ることで、現業務の位置付けと他業務との関わりがより明確に理解できている。海外企業との英語での業務調整時に、自分の意見／考えを受講前よりはっきり述べられるようになった。</p>
<p>上記質問事項に対して、本受講者は関与しておりませんので、直接的な効果はございません。 ただし、受講者の職場上司に確認しましたところ、海外企業との英語による会議において、積極的かつ建設的な発言が顕著に増していると報告を受けました。 受講者の職場では海外企業との国際電話会議が日常的に行われており、その場において大きな効果を出しております。</p>
<p>受講が終了したばかりで、上記の評価は困難（期待するのは酷）だと思います。</p>
<p>最新の民間航空機開発の知識。講義の翌週に受講者（町野）が講師となり、30分講義の内容を5-6名の若手に説明。国際的設計手法の基礎知識を共有し、技術者の意識の向上を図れた。また、町野君も講義の内容を振り返り、自分自身のものにできた。</p>

<p>大変貴重な情報をご教授頂き大変感謝しております。効果としましては以下のものが考えられます。①航空機開発についての知識、②ビジネスミーティングの進め方の知識、③航空機産業における日本企業の立場の理解</p> <p>昨年よりやや活発なディスカッションが出来ていたと感じました。質疑応答でも、昨年の受講生からの飛び込み質問などにも一生懸命答えており、今後の業務にもしっかりと活かしてもらえると期待しております。</p> <p>弊社においては、まだ直接的な具体的実績を得ておりませんが、本講座を受講した社員が今後の業務に受講内容を組み入れ成長していくこと、又受講人員が増えていくことにより、弊社に対する成果が確実に生まれてくるものと考えております。</p> <p>受講生の弊社における立場から、まだ新規雇用や売上高といった数字には出ていません。しかし、本講座を修了したことにより、リーダーとしての自覚が明確に表れてきました。特にコミュニケーション力に関しては、ときには空振りもしますが、かなりの飛躍が見受けられます。</p> <p>一般教育としての参加のため、明確な効果は確認できておりません。今後に期待しております。</p>
--

3.成果発表を聴取されたご感想(自由記述)

<p>英語レベルはそれぞれ差はあっただろうが、何とかごまかしながらも全体的には十分に外人と渡り合っているのではないかという印象を受けた。</p> <p>あきらめず、閉じこもらず、外人に向かっていく気があれば、きっと相手は受け入れてくれると思うので、カリキュラムで実施された英語を使ったトレーニングは効果があったのではないのでしょうか。</p> <p>テーマが素材・機体構造にかかわるものばかりでしたが、統一性を持たせる意味でそうされたのでしょうか。もっといろいろな課題・分野に分散させたら良かったのではないかと思います。</p>
<p>プレゼン能力がかなり向上している。また、英語能力の格段の向上が見られた。講座のカリキュラムの構成が良かったからだと考えられます。</p> <p>チーム発表でのロールプレイングに対する質疑応答時に、他のチームからもっと質問があっても良いと感じた。より英語での実践的な場になったと思います。</p>
<p>当社の受講生も含めて、受講生全ての方々は頼もしさに溢れておりました。</p> <p>また、林先生をはじめ、講座を支えていただいた皆様の熱意に感銘いたしました。</p> <p>受講生が和気藹々かつ生き生きと発表していたことが印象的であり、良い環境・雰囲気を受講できていたと確信できました。</p>
<p>どの成果発表もしっかりシナリオが練られ、講義で得た知識が盛り込まれ、各自の成長をみることができました。</p> <p>特に、会議の進め方、会話の仕方、合意形成のやり方、次回へのフォローなど、若手ではなかなかできていないことがしっかりできていたと思います。会社に戻り、日々の会議で、改善がみられることを期待します。英語会話は、落ち着いた答弁ができ、ユーモアもあり、すばらしかった。今後も継続し能力を磨いてほしいと感じました。</p>
<p>生徒さんや講師の皆さんのモチベーションが非常に高いことが印象的でした。このような素晴らしい方々と、弊社の中島と一緒に勉強させていただいたことに感謝しております。</p>
<p>本年度と同等の内容で結構だと考えます。最終発表では、ディベートのシミュレーションも良いのですが、いくつかのテーマの中から選んだモノについての自分の考えを、プレゼン(質疑応答付き)するような内容も面白いかと思いました。</p>
<p>全ての受講生が自分の意見を述べることにより、各々が受講内容、又どのように negotiation を行うのかを再確認できる discussion 形式での発表は、大変いいものであると感じました。また聴取していても興味深く聞くことができました。</p>
<p>シチュエーションが少しばかり中学生の英語劇のような感はありましたが、内容や構成に関しては本講座の成果発表にふさわしい大変充実したものでした。</p>
<p>残念ながら都合により発表会は欠席させて頂きましたが、後日受講生からは非常に有意義であったと聞いております。</p>

4.次年度講座に対するご要望（自由記述）

<p>機体から装備品レベルまで認証にかかわるカリキュラム・レッスンを GPL 講座で実施して頂きたい。今の MRJ 開発で認証取得にどれだけ苦勞をされているのか、技術的なテーマに加えて是非メニューに加えて頂いてはどうか。</p>
<p>受講生より、英語の授業では受講生が質問する機会を増やした方が、より実践的になるとの意見がありました。成果発表時に、他チームからの質問時間を追加してほしいとの要望がありました。</p>
<p>当課の受講生は現在 B 社と関わる業務を担当しており、講座で学んだことを即、実戦に生かされたと思われま す。「1 分間スピーチ」という場があったようですが、もっと受講生の体験や進行中のことを述べて、皆で共有したり、良い意味で刺激しあえることができると良いと思います。もちろん、会社の立場を踏まえ、言えることと言えないことを承知した上で。</p>
<p>初めて参加させていただき、今後 2～3 年は同様な基礎的な講座を実施していただきたいと考えています。また、OB などを含めた応用講座を企画し、構造、材料だけでなく、空力、制御、装備など航空機に関する様々な内容に広げ、また、実際の設計で起きた事象を話題に、英語でコミュニケーションする能力を高める講座を開催してほしい。</p>
<p>今後も継続して開催していただけることを希望いたします。</p>
<p>これからの期待されている航空宇宙産業界を支えてくれる若い人材の良き育成の場となっていると思います。いろいろとご苦勞もあられると思いますが、今後とも宜しくお願い致します。</p>
<p>もっと深いところまでも考えますが、限られた時間の中で行う講座としては現状において不足はないと思っております。</p>
<p>特にございません。</p>

5.事務局に対するご意見（自由記述）

<p>米国には FAA ACADEMY という教育機関があって、そこで航空のイロハを学ぶと聞き及んでおります。日本でも国交省（経産省・文科省・防衛省）と大学が連携して国の航空教育機関を立ち上げられないものでしょうか。</p> <p>是非検討頂きたくよろしく申し上げます。</p>
<p>受講生より、講義中、聴講されている他の教授達の私語が騒がしく感じる事があったそうです。</p> <p>全般的には楽しく参加でき、今後役に立つと感じられ、参加して良かったとの受講生からコメントがありました。</p> <p>来年度の GPL 参加予定：2 名～4 名</p>
<p>受講生ともども大変お世話になりました。</p> <p>今後ともよろしく願いいたします。</p>
<p>良くやっていただいたと感謝しています。来年度以降も引き続き、よろしく申し上げます。</p>
<p>この講座で学ぶ最新の航空機開発管理技術及び英語でのコミュニケーション力が、国内の防衛技術者に浸透するまで、是非継続していただきたい。さらに、国内の自動車メーカーが世界の基準をつつたように、国内の航空機メーカーが世界のメーカーと一緒に基準を作るまで、名古屋大学において技術者の育成と基礎技術の研究を推進ください。</p>
<p>特にございません。</p>
<p>本講座を受講させて頂いた弊社社員も「やりきった」という満足感と自信を得ることができたと思います。また本講座により異なる会社の方と同じ目標を持ち、同じ航空業界人であることを認識できる場でもあると思います。今後も長く本講座を継続して頂けることを願います。</p>
<p>特にございません。</p>

6. 来年の GPL 講座受講予定者数

申し訳ございません。現状、決まっておりませんが今年同様に 1 名ほど考えております。
(当社全体としてではなく、当課より) 1 名
課としては 毎年 1 名を希望
1 名
2~4 名
2 名
2 名
現時点では不明

以上